

旭

印刷を支え加工を活かす

林 春植

中綴じ部門

2018年に旭紙工株式会社へ新卒入社後、瓜破工場の中綴じ部門で経験を積み重ねている林春植さん。最近では機械の調整も任せられるようになり、技術の習得を目指して日々勉強に励んでいます。今回は林さんのこれまでの振り返り、記憶に残っているエピソードや今後の意気込みなどを伺いつつ、その仕事ぶりに迫りました。



入社のおかげを教えてください。

高校のとき、見学可能な企業一覧のなかで見つけたのが旭紙工の名前。当時は就職先の希望はとくに決まっておらず、旭紙工のほかにも食品系の企業などをいくつか見学しました。印刷や製本についての知識はほぼありませんでしたが、工場を見学させてもらった際に「本とはこのように作られているのか」と、製本業の世界にぐっと興味を湧いたので。会社の雰囲気よかったです。あり、この会社で働いてみたいと決心しました。

これまでに印象に残っている失敗体験はありますか。

入社して3年目くらいのことで。本来ならページが1から順番に並ぶよう正しく紙を積まなければいけないところ、誤って反対に積んでしまいました。当然乱丁が生じます。通常はページを間違えるとカメラが察知し、自動排出するため不良を防げるのですが、そのときは停止したのを誤動作だと思い込み、機械を操

作し直してそのまま作業を再開させてしまったのです。自分ではまったく気づいていなかったのですが、頭のなかは「どうしてだろう」と疑問でいっぱいでした。「あのときか」と思い至ったのは工場内の見守りカメラの映像を確認してからです。

ミス発生時は終業時間が迫っていたため急いでいたことに加え、片付けと並行しながら作業を行っていました。確認がおろそかになってしまったうえに、慣れによる油断もあったのでしよう。上司からは厳しいお叱りを受け、非常に落ち込みました。それ以来、機械の誤動作への

思い込みは捨て、細心の注意を払って業務に取り組むように心がけています。

——**仕事中にやりがいを感じるの**は、どのようなときでしょうか。

中身はいつしよでも店名が異なる本は、細かい仕分け作業が必要になります。スピードを意識しながらも、ミスとしては元も子もないため丁寧さも重要。集中して神経を使う作業となり大変なのですが、不良なく終わらせられると達成感を得られます。

また、鞍などの調子が悪いとき、機械を調整することにより直った状態で出てくると、うれしい気持ちになりやりがいを感じます。自分で機械を調整するようになったのは最近から。以前は簡単なエラーを除いて、何か不具合があれば上司にお願いする場合はほとんどでした。任せられた当初は不安でしたが、責任が増えたぶん仕事の手応えを感じる機会も多くなってきました。自信がない部分は上司に確認しながら、意欲的にチャレンジしていきたいと考えています。

——**仕事とプライベートの両立**についてはいかがでしょうか。

休みの日はだいたい友達と遊んでいますね。友達とリラックスして楽しく過ごす時間がリフレッシュにつながっています。

また、ゲームを趣味としています。よく遊ぶのは「オーバーウォッチ」というオンラインゲーム。チームを組んで戦う対戦ゲームです。平日は忙しくてなかなか時間がとれませんが、休日は友達といっしょに大いに盛り上がり、仕事への英気を養っています。

——**最後に、今後の目標を教えてください。**

目下の目標は機械の調整をマスターすること。具体的には、今使っているST5・ST6という2種類です。業務が忙しいと覚える余裕がなかなかありませんが、目指しているのは今年中の習得。この2種類をマスターしたらほかの種類にも徐々に手を広げて、操作できる機械を増やしていけたらいいですね。まずは機械に関する知識や技術を



しっかりと身につけて、いずれは上司に頼らず自立して作業を遂行できるようにになりたいと思っています。

入社以来、日々の業務を通して仕事の正確さや慎重に臨むことの大切さを肌で感じてきた林さん。不良を出さないように。また、安心して仕事を任せてもらえる存在になれるように。真摯に業務と向き合いながら、今日も目標に向かって一歩ずつ歩みを進めています。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ◆ ※創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人



部署紹介

Department Introduction



4年の軌跡

工場本部 品質検査編

● 所属人数 社員:1名 パート:2名



新型コロナウイルス感染症の影響もあり、検品件数が大幅に減少した品質検査課。現在は元に戻りつつあります。仕事量が少ない中で、よりお客様に満足いただける商品を提供していくため、業務の効率化と見回り強化を実施。課内で様々な改善施策に取り組んできた様子をご紹介します！

品質保証部 品質検査課
やまだ ゆき
山田 幸希さん



2019年からの変化

2019年

件数維持!慌ただしく業務にあたっている時期も

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が広がるまではサンプル数が多いときで10~20万も。集中力を切らさず、不備がないよう検査することを意識して業務にあたっていました。

2020年~2022年

交代制勤務となり、
休息も確保

働き方改革も大きく前進。週休二日制が導入され、日曜日のほか週に1日交代制でお休みをとれるようになりました。それまでは月曜日から土曜日までフル稼働していたので、集中力を維持するよう心がけていましたが、心と身体に余裕が生まれ、メリハリをつけて働くことができるようにもなりました。

2023年

件数も徐々に戻りつつある

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから件数も回復傾向にあります!2019年以上に仕事が動いている印象も。忙しさは戻ってきましたが夏の閑散期には週休二日制を維持しています!

2020年~2022年

感染拡大の煽りを受け、件数減少

新型コロナウイルス感染症が大流行し、ソーシャルディスタンスという言葉や移動を少なくするという声上がるように。旅行が減少したことで、旅行案内のパンフレットや冊子の依頼が減少。集客を目的とした、例えば音楽コンサートなどのポスターや冊子の依頼も減りました。1日の検査件数は20件前後に。

2020年~2022年

業務の効率化による見回り強化

それまで大量のサンプルの検査作業に大きく時間を割いていましたが、依頼が減少しているときこそはと無駄なく効率的に検査を行うことを心がけた結果、さらに時間のゆとりが生まれました。こうして生まれた時間で現場の見回りを強化。一般用製品の確認評価を行い、不具合が出ていないかを丁寧に見て回りました。具体的には製品が正しく折れているか、汚れや破れはないかなど、間違いなく加工ができていないかを確認していました。

印象に残っている出来事

不具合の早期発見

見回りをする時間が増えたことで、印刷の汚れといった不備をお客様にお渡しする前に見つけることができるようになったことが最も大きな収穫です。また、お客様からも不備をしっかりと発見してくれてありがたかったというお声もいただき、嬉しく思いました。不具合といっても色々なケースがあり、それを知れたのも今後の検品作業に活かせると感じています。

今後の目標

業務のさらなる効率化と簡素化を進めるお客様にご迷惑をおかけないよう一点一点間違いのない検査、作業をやっていくことが目標です。そのためにも、効率化することで得られることが多いことは実感したので、引き続き効率化できる業務の洗い出しと改善は行っていきたくと思っています。例えば、種類が多いものは個別に包装するのではなく、種類ごとに紙を敷いて、まとめて包装するなど作業の簡素化を営業担当の方に相談しつつ進めていけたらと考えています。